講義名	公務員特別演習Ⅰ					授業形態	
担当教員	関　陽	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 ２時限				
		単位数	2	履修開始年次	１年生	ナンバリング・コード	

主題と概要

【目的】
公務員特別演習は、公務員を目指す経済学部生を対象とする、１年後期（演習Ⅰ）から４年前期（演習Ⅵ）まで一貫したプログラムである。「究極のサービス業」とも呼ばれる公務員は、様々な分野で、多くの人々の暮らしを支える非常にやりがいのある職業である。したがって、この演習のみで合格できるほど公務員試験は甘くはない。また知識をただ暗記し、他者からの指示がなければ行動できない人材も求められてはいない。つまり公務員試験には、自ら考え、仲間とともに正解のない問題に挑戦できる総合的な人間力が求められている（まさに本学が掲げる「ネアカのびのび　へこたれず」の精神をもった人材）。そこで本演習は、高いモチベーションを維持しながら試験対策を効果的に継続できるように、様々なヒントを段階的に与えることで、公務員を目指す諸君をサポートしていく。

【内容】
１年生後期の公務員特別演習Ⅰでは、公務員試験の『数的処理』分野の問題を解くために必要な知識や基礎力を修得し、能力の底上げを図る。また、公務員に関する講演・講話・体験談や、受講生が自ら行う調査・発表・ディスカッション等を通じて、公務員に関する理解を深め、モチベーションを高める。

到達目標

公務員試験の「数的処理」分野の基礎能力を養うことができる。公務員に関する理解を深めてモチベーションを高めて維持することができる。

提出課題

公務員関連事項に関する１回以上の調査・発表と、複数回（３～５回程度）以上の質疑を課す。
公務員試験の「数的処理」分野の過去問演習と確認テストを行う。
講義記録ワークシートを毎回提出する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

調査・発表と質疑応答については、発表後に講評する。
過去問演習と確認テストについては、講義中に解説を行う。
講義記録ワークシートは次回授業の冒頭に返却し、必要に応じて講評や説明を行う。

評価の基準

公務員関連の調査・発表・質疑応答が40%、「数的処理」分野の過去問演習と確認テストが30%、授業参加度合（授業態度、授業における質問・発言等及び講義記録ワークシートによって評価する）が30%の割合で評価する。

本授業は期末試験を実施せず、成績は授業期間内で全て評価される。この科目は、継続的な演習を中心とした科目である。欠席すると以降の演習に支障をきたす恐れがある。このため、目標達成のためには、初回から最後まで全て出席すること。

履修にあたっての注意・助言他

本授業を履修するには、ガイダンスへの参加とエントリーシートの提出が必要です。
【ガイダンス】
１年前期（５～６月）にガイダンスを実施するので、履修希望者は必ず参加して下さい。
【エントリーシートの事前提出】
公務員対策は４年間にわたる長丁場の取り組みとなり、強い意志が必要となります。そこで履修希望者は、エントリーシートを提出して頂き、それが審査されて履修の可否が決定されます。エントリーシートの詳細はガイダンスで説明します。なお、本授業は２０人程度を定員としています。

【その他の注意・助言】
・本クラスは、真剣に公務員試験合格を目指す学生を対象とする。理由なく遅刻・欠席しないこと。
・本プログラムの学習のみで合格できるほど、公務員試験は甘くない。本クラスはあくまでも公務員志望者のサポーターである。受講生諸君が独自に試験対策を練り、自習を重ねる必要があることは言うまでもない。
・学内の公務員試験対策講座（3年生から始まる有料講座）等の受講、もしくは外部専門学校の受講（ダブルスクール）を強くお勧めする。

・「基礎技能B」以外の関連する正課授業も、順次、履修することを強く推奨する。
（共通）法学入門、経済学入門、地域まちづくり概論、防災まちづくり論、業界研究（官公庁）
（行政職希望）民法A・B、憲法、政治学、財政学、行政学、地方行政論、地方財政論、経済数学、ミクロ経済、マクロ経済
（公安職希望）基礎技能A（数的処理Ⅱ）

教科書

・教科書は使用しない。・				

参考図書

その他

必要に応じて資料を配布する。

参考図書：
「公務員試験「数的推理」が面白いほどわかる本」、柴崎 直孝（著）、KADOKAWA
「公務員試験「判断推理」が面白いほどわかる本」、柴崎 直孝（著）、KADOKAWA
「公務員試験 新・初級スーパー過去問ゼミ 数的推理 改訂版」、資格試験研究会（編集）、実務教育出版
「公務員試験 新・初級スーパー過去問ゼミ 判断推理 改訂版」、資格試験研究会（編集）、実務教育出版

授業計画

1. イントロダクション、数的推理の考え方、数の性質
2. ワークアカデミー　講義：公務員試験の動向
3. 西区役所　講義
4. 西区役所　ディスカッション
5. 公務員ミニ講演１、発表、数的推理（余りと不足）
6. 発表、数的推理（割合、比）
7. ワークアカデミー　数的処理講座
8. ワークアカデミー　数的処理講座
9. ワークアカデミー　数的処理講座
10. 兵庫県警本部長　講義
11. 発表、数的推理（割合、比）
12. 発表、数的推理（整数解）
13. 公務員ミニ講演２、発表、数的推理（文章題）
14. 公務員ミニ講演３、発表、数的推理（場合の数）
15. 発表、数的推理（図形の計量）、まとめ

上記以外に、公務員内定者交流会などが予定されることがあります。上記授業計画及び授業内容は変更される可能性があります。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
○	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
○	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

本講義では、毎回の学習内容の復習や、次回内容についての予習が非常に重要である。予習と復習については、授業中に指示する。公務員関連に関する調査や発表準備を含めて、１回の講義に関する下調べと事後確認に4時間程度をかけることを目安とする。また、普段から公務員に関するニュース・情報に関心を持ってください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本演習は以下のディプロマポリシーと関連する。
【流通科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力】
①「ネアカのびのび　へこたれず」の精神をもった人材
②知識を知恵に転換することができる，論理的思考力を持った人材
③創造力 新しい視点と豊かな発想 を持った人材
④自主・自立の精神を持った人材
⑤仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材
⑥「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン」となるための基礎能力

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

演習形式の授業である。受講生が公務員関連事項について調査・発表・質疑応答を行う。過去問演習はディスカッションをしながら行う。

実務経験の有無及び活用

備考